子どもの未来のための協働促進助成事業 事後評価報告書(実行団体用)

1. 基本情報

(1)実行団体・助成事業概要

1-70-110-111				
実行団体名	主幹事団体: NPO法人MamaCan(コンソーシアム: NPO法人さんま・特定非営利活動法人まつどNPO協議会)			
実行団体事業名	子育て・子どもの孤立をオール松戸で予防する「まつどでつながるプロジェクト」			
事業対象地域	千葉県松戸市			
実施期間	2020年 7月~ 2023年 3月			
直接的対象グループ(人 数)	様々な制度や支援につながりづらい「グレーゾーン」の子育て家庭…約5000世帯(約 10,000人)、子ども・子育てに関わる支援者…行政(11課+教育委員会)、民間(約50 団体)			
団体目的	子育てにおける様々な支援や制度があるにも関わらず困難さを解消できない現状に対して、相互の資源を活かしあう環境やシステムを築くことで、孤立した子育てを減らすことを目的としています。			
団体活動	あらゆる子育て世帯・子どもとつながるための、多様な主体が連携した予防的事業 やアウトリーチ事業			
事業課題	「声をあげない、あげづらいグレーゾーン家庭」における出産前後からの社会的孤立、子育ての生きづらさ			
課題に対する行政等による 既存の取組み状況	児童や若者、また養育者に対してそれぞれが縦割りの事業となっており、相互を一体的に捉えた上で民間も含めた多セクターと連携して課題解決に取り組む体制にはなっていない。			

(2)資金分配団体概要

資金分配団体名	特定非営利活動法人エティック
資金分配団体事業名	子どもの未来のための協働促進助成事業
事業の種類	イノベーション企画支援事業(2019年度採択)

(3)事業概要 ※最新の事業計画書の内容に沿って記載

事業によって解決を目指す社会課題

核家族、ワンオペ育児、シングル家庭といった背景に加え、コロナ禍でさらに加速している子育ての孤立感。その中でも「つながり方が分からない」「他者に介入してほしくない」「そもそも現状を課題だと感じていない」「行政的な支援にアレルギーがある」といった子育て家庭は、既存の子育て支援施策や居場所に接続しづらく、社会的に孤立することで虐待や産後うつといった親子関係における負のループに陥りがちです。

当事業では、多様な主体をつなぐことで網の目の細かい、切れ目のない支援ネットワークを構築し、あらゆる子育 て世帯・子どもとつながる仕組みづくりを通じて「孤立した子育てを防ぐ」ことを目指しています。

事業が対象としているグループ

どのような子ども(やその家族)が主な対象ですか

どのような組織や個人と連携・協働しますか

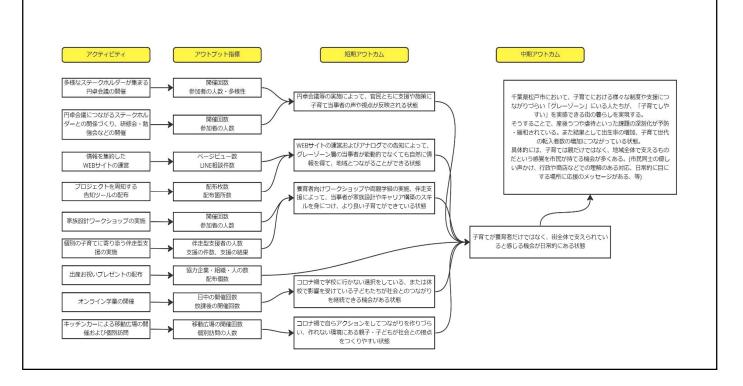
何気ない相談や頼ることができる親族、知り合いが身近|行政において子育で・子どもに関わる部署、居場所事 に少なく、特に乳幼児期で様々な制度や支援につなが りづらい困難さを抱え込みがちな「グレーゾーンの子育 て家庭」。

業や子ども食堂など子育て支援に携わっている民間の NPOや団体、地域で身近に関わることの多い町会自治 会や商店など。

ロジックモデル

助成事業に関するロジックモデルを整理、図化し、画像データを貼り付けてください。事業計画書記載の中長期ア ウトカム・短期アウトカム・活動を含む形で整理してください。

※助成事業を主な記載対象としますが、目指すアウトカム等を説明するために必要な他の活動や補足文章を追 加することは構いません。



出口戦略

助成期間終了後の持続的・発展的な活動のために、助成期間中に事業面・資金面で何を目指し、どのように取り 組みますか。

- 基本的には各事業において独立した採算で自立運営ができることを目指して財源を確保する。具体的にはマン スリーサポーターの募集、協賛企業の確保、行政からの補助、当事者負担など。
- ・一方で、WEBサイトの運営やLINE窓口、拠点における相談機能といった採算性の難しい事業については、クラ ウドファンディングの実施や寄付を募りながら、継続的には委託事業など行政に働きかけていきたい。

2. 事後評価の実施概要

(1)実施概要

どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定し、どんな調査で測定したのか。短期アウトカムごとに、記載してください。

してください。		
	短期アウトカムの内容	調査・分析方法 ※1)調査方法 2)調査実施時期 3)調査対象者 4) 分析方法が含まれる形で記載してください。
短期アウトカム①	円卓会議等の実施によって、官民ともに支援や施策に子育て当事者の声や視点が反映される状態。 〈目標とする指標〉 ①行政内において正式な会議体として位置づけられており、施策を検討する上で重要だと認識されている。 ②議論をきっかけに施策に反映された事例がある。	・これまでに円卓会議に参加したことのある方へのアンケート調査(主な項目は円卓会議での議論を経て変化したことや取り組んだ事例)
短期アウトカム②	WEBサイトの運営およびアナログでの告知によって、グレーゾーン層の当事者が能動的でなくても自然に情報を得て、地域とつながることができる状態。 〈目標とする指標〉 ①プロジェクトの情報発信している公式LINEアカウントの登録者数が1000名を超えている。 ②サイトを訪問したり、LINE窓口を経て必要な情報にアクセスできる人が7割以上となっている。	1)調査方法 ・LINE公式アカウントの登録者数 ・リアル相談窓口(つながる一む)への来訪者数および相談内容の検証 ・LINE窓口を通じて相談があった件数および内容の検証 ・LINE登録者へのアンケート調査(主な項目はLINEからの配信情報に対する感想、実際に活用したことのある人の割合) 2)調査実施時期 ・2022年11月~2023年1月 3)調査対象者 ・LINE公式アカウントに登録している方、相談窓口の来訪者 4)分析方法 ・相談内容の分類、相談対応の担当者へのヒアリング・アンケート結果についての集計

_			
	短期アウトカム③	養育者向けワークショップや両親学級の実施、伴走支援によって、当事者が家族設計やキャリア構築のスキルを身につけ、より良い子育てができている状態。 〈目標とする指標〉 ①ワークショップ等を受けた世帯において、8割以上が対等に役割分担について対話できている状態。 ②子育てに対する不安感や心理的負担感が減少した人が8割以上となる。	1)調査方法 ・過去に実施したワークショップ参加者のアンケート結果の分析 ・伴走支援で関わった世帯に対するアセスメント経過の分析 2)調査実施時期 ・2022年11月~2023年1月 3)調査対象者 ・ワークショップ参加者のアンケート結果 ・伴走支援で関わった世帯 4)分析方法 ・ワークショップまたは伴走支援により、対象者がどのように変化をしたのか、特にパートナーや親子における関係構築について、また当人における心理的変化について
	短期アウトカム④	全体で支えられていると感じる機会が日常的にある状態。 <目標とする指標> ①行政との協働でプロジェクトの周知を全市的に取り組んでおり、ポスターなどを目にする機会が多い。 ②同じくアンケートにおいて「子育てしやすい=60%」を超えている。	1)調査方法 ・市民子育でサポーターの養成講座を行政との協働で実施することになり、市ホームページおよび公共施設において告知した。 ・松戸市子ども・子育でアンケート(令和4年7月実施)の分析 ・LINE公式アカウント登録者へのアンケート調査(主な項目は子育でしやすいと感じているかどうか、街のつながりへの意識など) 2)調査実施時期 ・2022年11月~2022年1月 3)調査対象者 ・未就学児の保護者…回収510票(1010票) ・LINE公式アカウントに登録している方 4)分析方法 ・アンケート結果から指標に対して、松戸市が実施している調査との比較を行い、差異が見られるかの検証

調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか

上記の「調査・分析方法」に沿って測定結果(事実)が出たのち、価値判断をどのような過程で行ったかを記載してください。

・結果を踏まえ、マネージャー3名による検討のミーティングを行い、運営協議会のメンバー同士で共有、議論した。

また調査および評価でアドバイザーとして関わっていただいた石田先生にもコメントをしていただいた。

・上記の判断をもとに、プログラムオフィサーを交えたミーティングにおいてフィードバックを受け、適宜修正した。 ・最終的にマネージャー、プログラムオフィサー、外部のオブザーバーで3年間の取り組みを振り返るミーティングを行った。

(2)実施体制

内部/外部	評価担当分野	氏名(フルネーム)	団体・役職
内部	全体の事業に関連したデータ収集	山田美和	まつどでつながるプロジェクト運営協議会・代表
内部	結果を踏まえた評価のまと め	阿部剛	まつどでつながるプロジェ クト運営協議会・マネー ジャー
外部	研究者の視点からのフィー ドバック	石田光規	早稲田大学文学学術院文 化構想学部教授
外部	客観的な視点からのフィー ドバック	五井渕利明	認定NPO法人かものはしプロジェクト・日本事業担当

3. インプットの実績

(1) 収入実績(助成金と自己資金) ※本報告書作成時点での着地見通しで結構です。

	契約当初の 計画金額	実際に投入 した金額	備考
A. 助成金の合計	25,200,000	39,677,400	通常助成: 25,200,000円、追加助成14,477,400円
B. 自己資金	5,950,000	5,511,501	1年目455,270円 2年目2,056,179円 3年目3,000,000予定
C. 総額(A+B)	31,150,000	45,188,901	
D. 自己資金比率 (B/C)	19.1%	12.2%	

自己資金の内訳(金額と調達先)	自己資金の調達で 工夫した点・うまくいった点	自己資金の調達で改善できた点・ うまくいかなかった点
(100万円)・オンラインパーク参加費(100万円)・イベント等収入(50万円)・ファミリーカレッジ収入(45		エコシステムの観点からすると支援者からの会費を募ることがもう 少し取り組めると良かった。

(2)支出実績

どのような事業において、どのような項目にどの程度支出したのか、助成事業の支出の概要がわかるように記載してください。

- ※事業費については、協働を促進するための活動と、直接子どもやその家族を支援する活動(協働に間接的につながるものも含む)に支出を分類してください。
- ※同一の内容を含む表を、別フォーマットで作成いただいても結構です。
- ※本報告書作成時点での着地見通しで結構です。

			実際に投入 した金額	内訳の概要を記載してください。
直接事業費:	A. 人件費	6513210	7756000	マネージャー報酬の1/2+事業リーダー報酬の1/
	B. 人件費以 外	360460	295218	地域円卓会議に関わる費用+ウェルカムベビー プロジェクトのパートナーシップ契約に関わる費 用
	C. 総額 (A+B)	6873670	8051218	

直接事業費:	A. 人件費	14219280	21237806	ウェブサイト、LINE運用と相談対応、円卓会議、 キッチンカー、ウェルカムベビープロジェクト、ファ ミリーカレッジ、オンラインパーク、全体のマネー ジャー費用の内、上記以外
直接子どもやその家族を支援する活動	B. 人件費以 外	6251550	10181405	内、業務委託費が大部分を占めており内容としてはスタッフの稼働に関わる費用となっている その他はキッチンカーリース、諸謝金や印刷製 本費など
	C. 総額 (A+B)	20470830	31419211	
	A. 人件費	999675	1776440	事務スタッフの給与
管理的経費	B. 人件費以外	1605825	2749660	家賃、交通費、研修費
	C. 総額 (A+B)	2605500	4526100	
	A. 人件費	0	0	
評価関連経費	B. 人件費以 外	1200000	1192372	評価に要した調査・分析・研究費用 (一部内部マネージャーへの委託費を含む)
	C. 総額 (A+B)	1200000	1192372	
総額		31150000	45188901	

c. 人材・資機材など

事業実施体制 (メンバーの人数、主要なメンバー の名前と役割など。社外の人材や 組織も含む)	本助成事業から人件費が計上されていない別事業も含めると、全体で17名がプロジェクトに関わっている。(関わりのある当事者や利用者が特性上横断することもあるため) 本助成事業における主要なメンバーとしては、マネージャーとして3名、事業担当として5名、サポートスタッフとして4名、管理部門で1名関わっている。(山田美和…全事業の統括、石川静枝…主に伴走支援に関わる事業を担当している、阿部剛…対外的な連絡調整、ネットワークづくりを担当している。) 対外的には運営協議会として外部から3名、支援の専門家が3名、評価で研究者が1名が関わっている。
資機材、その他	パソコン、プリンター

4. 活動・アウトプット・アウトカムの実績

(1)主な活動

名称	詳細	実施時期	備考
①A: 多様なステークホル ダーが集まる円卓会議の 開催	等の準備や打合せを行う	2020年6月~2022年3月にかけては年3 回、各回2か月前から準備を始めて自主 開催をしてきた。 2022年4月~は松戸市子ども政策課との 協働事業という形で進めるにあたり、5月 に年間計画を立て準備を進めてきた。	2023年の第3回については「まつど子ども若者ネットワーク」との共催で、子ども家庭相談課や教育委員会児童生徒課、障害福祉課、民間団体のネットワークと連携した会を開催することができた。
②B:情報を集約したWEB サイトの運営	②一1. 既存の行政におけるサイトの問題点の分析をした上で、サイトに掲載すべき情報の収集、整理を行う②ー2. サイトへの掲載、サイト全体の見せ方や構築の改善を行う②一3. LINEの窓口開設時間を定めて随時情報発信と相談の対応を行う	2020年度はサイトのリニューアルに向けた 検討を行い、2021年度にレイアウトやコン テンツを一新した。また2020年度よりLINE 窓口での相談対応も行っている。	夜間や休日も対応可能時間を設け、中に
③B:プロジェクトを周知する告知ツールの配布数	③ - 1. すでに作成しているフライヤーの配布、配布先の開拓を行う ③ - 2 店舗等で掲載してもらうためのステッカーのデザインを検討し、印刷および配架を行う ③ - 3. フライヤーのデザイン変更を検討し、印刷を行う	2021年、2022年にそれぞれプロジェクトの PRを行うためのリーフレット等を見直した。店舗については協力者を募り、各々の 地域でお店を回り掲示や配架をお願いし ていった。	特に飲食を扱うお店で、プロジェクトに共 感いただいた所で、店頭で弊会のオリジ ナルコーヒーを代理販売していただくこと に協力をしてもらうことができた。購入を 通じてプロジェクトを知っていただく機会に もつなげることができている。
④C:家族設計ワークショップの実施	④-1. 外部有識者を交えながらワークショップの企画設計を行う ④-2. ワークショップ開催のための資料作成、デザインおよび 印刷を行う ④-3. 開催に向けて、参加者を募集する広報、運営準備を行う ④-4. 開催後はアンケートを実施、その結果をもとに毎回内容 の改善などを検討する	2020年度には子育て支援や母親の心身のサポートに専門性のある方に協力いただきプロトタイプの冊子を作成してワーショップなどを行った。2021年度には改善点を話し合い冊子をリニューアルして講座	改善についてのプロセスとして、男性の視点や多世代の視点を入れた方が良いという意見から、2021年度に幅広く意見を募るワークショップを行い、リニューアルした。その冊子は1000円で販売する形で自己資金につなげている。2022年度にはさらに予防的なアプローチとして学生や若者でも気軽に体験できるようなボードゲームの作成に取り組んでいる。
⑤D: 出産お祝いプレゼント の配布	⑤ - 1. プレゼントに入れる内容を当事者に参画してもらいながら検討する (⑤ - 2. プレゼントをどのように制作し、届けるかの設計をする (⑤ - 3. プレゼント制作に協力していただける企業や団体を募集する (⑤ - 4. プレゼント制作、配布を行い、アンケートを実施する	2020年度には子育て当事者を有志で募り、どのような内容が入っていたら喜ばれるか検討を重ねた。年度末にはプロトタイプで100件の配布を行った。2021年度、2022年度には徐々に配布数を増やしている。	元々戸塚ではじまったウェルカムベビープロジェクトについては自宅への配送を前提としているが、松戸では直接手渡しをすることにこだわって配布会どを開催してきた。そのことで協賛いただく企業との接点にもなり、民間が連携してお祝いをする取り組みにつながっている。
⑥D:個別の子育でに寄り 添う伴走型支援の実施	⑥-1. 個別の支援に関係する組織や個人に声をかけ、現状の課題を議論する場を設ける ⑥-2. 個別の伴走支援が必要な家庭に対してモデル的に関わり、実際に対話を重ねながらどのような関わり方が求められるかを検討する ⑥-3. モデル的な事例を抽象化しながら、伴走支援としての関わり方を整理し、支援者を集めての研修やワークショップを開催する ⑥-4. 実際に支援を要する家庭に対して研修を受けた支援者が継続的に関わる	2020年にはコロナ禍の影響から食の支援 へのニーズが高まり、それをきっかけに継 続的な支援につながるケースが増えて いった。2021年度には伴走支援の事業委	
	①-1. 地域円卓会議を中心とした持続可能なエコシステム形成につなげる短中期計画を策定する ⑦-2. エコシステム形成につなげるステークホルダーとの関係 づくりを目的とした勉強会、研修会の企画を行う ⑦-3. ステークホルダーに対してプロジェクトへの賛同者とし ての働きかけを行う	最終年度の追加助成として、エコシステム 形成に向けたステークホルダーとの場づく りに取り組んできた。賛同者への働きかけ についてはあまり進めることができなかっ た。	いう肩書きもあり、個人としてプロジェクト の取り組みへの理解や共感、個別のつな

(2)アウトプット

▼最新事業計画書から転記						▼実績値を踏まえ見込みを 記載	
項目	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期	実績値	測定時期	事業終了時までの 目標値/状態の達 成見込み
①A:多様なステークホルダーが集まる 円卓会議の開催		団体、当事者	・年3回/延べ160名 /行政(子ども子育 てに関わる部と関わるで、 の他の支援に関わる部署別 会、民間支援団体、 当事者、企業、地縁 組織		・年2回/延べ70名/行政(子ども 子育てに関わる部署、その他の支 援に関わる部署)、教育委員会、 援に関わる部署、教育委員会、 展間支援団体、当事者、企業、地 縁組織、保育士、病院、児童家庭 センター	2023年1月	・2023年2月…年3 回、参加者110名 目標としていた人数 には達しない予定。 今年度より密度の 濃い対話を目的とし て、各回のテーマを 絞ったことで参加者 も制限したため。

②B:情報を集約し たWEBサイトの運営	・ページビュー数/ LINE相談件数	・約1800(月平均)/ 新規4件(オープン 後から現在まで)	・5000(月平均)/ 150件(1年あたり)	2023年3月	・7500(月平均)/155件(延べ)	2023年1月	達成済み
③B:プロジェクトを 周知する告知ツー ルの配布数	·配布枚数/配架箇 所数	ヤー5000枚(1年あ たり)、ステッカーは	・全事業のフライヤー述べ15000枚(1 年あたり)、商店設置用ゲッズ1000枚 (1年あたり)/100 か所	2023年3月	延べ12800枚…ファミリーカレッジ (2400)、ウェルカムベビーブロジェ クト(7400)、商店などプロジェクト 周知(3000)/配布箇所…延べ65 (常設41カ所、イベント24カ所)	2023年1月	・延べ12800枚…ファミリーカレッジ ミリーカレッジ (2400)、ウェルカム ベビーブロジェクト (7400)、商店などブロジェクト周知 (3000)/配布箇所 …延べ65(常設41 カ所、イベント24カ 所)
④C:家族設計ワークショップの実施	・開催回数/人数/ 実施体制	•未実施	・12回(1年あたり) /150名/開催の半 分は行政との協働 で実施している	2023年3月	*10回(4月~現在)/157名/5回 が行政に関連した実施		・10回(4月~現在) /157名/5回が行 政に関連した実施 目標の回数には違しない予定。行政と の協働で実施する 取り組みは増えている。
⑤D: 出産お祝いプレゼントの配布	・協力してもらう企業、組織、人の数/配布個数	•未実施	・20組織(1年あたり)、10名/200個	2023年3月	-協力企業40社(協賛9社、広報協力31店舗、協力団体44団体、スタッフ以外の運営協力39名/予約数300個(うち、今年度は124件配布済み)	2023年1月	達成済み
⑥D:個別の子育で に寄り添う伴走型支 援の実施	・伴走型支援者の人 数/支援の件数/ 支援の結果	•未実施	・10名/30件/ルーブリックを設定しより 良い状態になった件 数が8割以上		・正式にアセスメントしている方が 11名(準備中、その他の方が26名) /アセスメントの経緯から改善傾 向に向かっている方が82%(9名/ 11名)	2023年1月	達成済み
⑦E:オンライン学 童の開催回数	・日中の開催回数/ 放課後の開催回数	・未実施	・週2日/週2日	2021年7月	- 週2日/週2日	2021年7月	達成済み
⑧F:キッチンカーに よる移動広場の開 催および個別訪問	・移動広場の開催回 数/個別訪問の人 数	・未実施	・80回、親子平均5 組(400組)、子ども 400人) /月平均10世帯 (200世帯)	2021年11月	•51回、1321名/月平均12世帯	2023年1月	・稼働回数は目標に は達せいしなかった が、地域のイベント などで呼ばれて伺う ことが増えてきてい る。
⑦A:円卓会議につながるステークホルダーとの関係づくり、研修会・勉強会などの開催	•開催回数/人数	•未実施	・年8回/延べ100名	2023年3月	-7回/延べ83名	2023年1月	・2023年3月に研修 会などを2回予定し ており延べ100名を 超える見込み。

(3)短期アウトカム

▼最新事業計画書から転記					▼事後評価の測定時点での値を記載	▼実績値を踏まえ見込みを訂	
項目	指標	初期值/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期	アウトカム発現状況(実績)	測定時期	事業終了時までの 目標値/状態の達 成見込み
もに支援や施策に 子育て当事者の声 や視点が反映され る状態。	おり、特に行政の施 策に正式に位置づけられている。 ②円卓会議で議論 されたことをきっか	ついては一部の人が理解している。また正式には位置づけられていない。 ②具体的に意見が 反映されている事見が	正式な会議体として 位置づけられており、施策を検討する 上で重要だと認識されている。 ②議論をきっかけに		①② 2022年度から協働事業という形で 2022年度から協働事業という形で 子ども政策課と実施している。また 同課へのヒアリングを実施し、き後 も官民の連携を推進する上でさら に発展していきたいという返答が 得られた。 ②② 過去の参加者にアンケートを実施 し、約半数が本事業を通じてつな がりを広げることができたという回 答だった。施策への反映は未確認連 携先が増えたという声は官民それ ぞれから聞かれている。		①観報業に ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で

B:WEBサイトの運営およびアナログでの告知によっ層ではなって、グレーソーン層的でない。 事者が能動的でなくても自然に情報を得て、地域とつなが ることができる状態。	松戸市の子育で情報を得ようと思ったときに代表的に知られている。 ②情報を知ったこと	②相談対応などの 結果、数件の事例と してつなげることが	報発信している公式 LINEアカウントの登 録者数が1000名を 超えている。 ②サイトを訪問した		①⑥ LINEの登録者は1196名で目標を達成している。またLINEを経由して相談をされた件数は2022年4月~12月にかけて155件にのぼった。② の相談内容は子育ての不安(離乳食・発達の遅れ・保育園)、パートナーとの関係、といった内容で、LINEでのやり取りや電話での傾隔者へのアンケートでは8割以上が配信の情報に満足していると回答し、7割が向かしら実際に活用したり訪問したことがあるという結果だった。	2023年1月	①達成済み ②概ね達成予定
クショップや両親学 級の実施、伴走支 援によって、当事者	て自分自身の価値 観を理解し、パート ナーまたは周囲の	が不足しているが、 現状として対話など の時間が設けられ ていない。 ②講座を実施してい	を受けた世帯において、8割以上が対等 に役割分担について対話できている状態。 ②子育てに対する	2023年3月	① 本	2023年1月	①夫婦マれぞれへへのアゲースをいる。 ではことが後さはできなどは、 かった。一様にはないが、 がでは、 がが、 がが、 ではも参事業とので、 をはいずとので、 をはいずとので、 をはいずとので、 では、 では、 では、 では、 で後は、 で後は、 で後は、 で後は、 でが、 できなどと、 できなど、 できなど、 できなど、 できなど、 できなど、 できなど、 できなど、 できなど、 できなど、 できなど、 できなど、 できなど、 できな、 、 できな、 、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 、 できな、 できな、 できな、 、 できな、 、 できな、 、 、 できな、 、 、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな
だけではなく、街全	政や企業、市民に 周知されており、子 育てを支えることの 理解が進んでいる。 ②市が実施している	知は一部に留まって おり、子育でに関すいで を持つ人を持つ。 ②平成30年に記る で、「子育がいた」 で、「子育でしやすで、「子育でした」	全市的に取り組んで おり、ポスターなどを 目にする機会が多い。 ②同じくアンケート		①〇 企業、商店の協力が増えたことで約40カ所で常設でチラシなどを配架していただいている他、出産お祝いプレゼントやイベントの実施については公共施設および一部の町会掲示板で広報を行っている。②〇 令和4年度に市が実施したアンケートによると「子育てしやすい」という項目が削除されていたため比較ができなかった。弊会が実施したアンケートでは58%が子育てしやすいという回答だった。	2023年1月	①概ね達成予定 ②比較対象の市ア ンケートが未実施
ている、または休校 で影響を受けてい る子どもたちが社会 とのつながりを継続	選択をしている子ど もたちがオンライン 学童に参加している	①未実施 ②未実施	©20名	2023年3月	① △ 3名(いずれも長期不登校、または 家庭の事情により学校に行けていない子どもが参加している。) ② △ 7名(①の子どもも含め、プログラミングやVR空間をテーマに学んだり集っている)		①②目標には達することができなかった。一方で不急増し、人数自体は急力にいる状況にあるため、引き続き周知を広げていきたい。
F:コロナ禍で自らア クションをしてつな がりを作りづらい、 作れない環境にあ る親子・子どもが社 会との接点をつくり やすい状態。	問して作ることができた接点をきっかけに、その家庭が必要な支援につながる。	ける児童館は少な く、子ども会などの 地縁のつながりも 減っている。またコ	①40名 ②延べで80回の開 催を行い、地域住民 やポランティアの方 の参加を積極的に 募る。	2023年3月	①〇本事業の継続実施のために2022 本事実の継続実施のために2022 年度にマンスリーサポーターを募 集するクラウドファンディングに挑 戦し、結果として58名の方に支援 をしていただいている。その財源を もとに、つながりを必要としている 伴走支援者の一部に割引のチケットを配布しており、一歩外に出てつながる機会を作ることができている。 ②△ ②△ ②血 と目標には達成できていない。	2023年1月	①概ね達成予定 ②目標には達することができなかった。 今後地域との連携 を増やすことで、きら に多くの方に参加を していただきたい。

外部との連携・協働の実績

①松戸市役所との連携、協働

・2021年度~、男女共同参画課からの委託事業として、庁内の福祉部署を横断した女性へのつながりサポート事業を受託。伴走型支援として専門家のサ

ポートを見けながら実施。
・2021年度~、親向けの子育て講座としてファミリーカレッジを実施するにあた

2021年度、統同10の1号に調査としてパンプルプレンを悪するにあり、教育委員会と連携して児童の親向けの企画を行っている。 ・2022年度~、子ども政策課との協働事業として、地域円卓会議および子育てに関連した市民サポーターの養成講座をスタートしている。

②民間団体との連携

・2020年度~、出産お祝いプレゼントの実施にあたり、先進事例で取り組まれ 7000年度、北戸産われてリンドントの大幅にあった。北戸学的となり組まれていた設定特定非営利活動法人こまちプラスさんと提携し「ウェルカムベビープロジェクト」の地域パートナーとして運営を行っている。
・2020年度~、出産お祝いプレゼントを当事者に届けるにあたり、市内の子ど

も食堂と連携して各活動場所においてプレゼントを配布するなどの取り組みを 行った。
③専門家との連携

③等1 3×CV)連携 ・2020年度~、早稲田大学の石田教授に参画いただき市内の子育てにおけ る孤立をテーマとした定量的調査を実施。 ・2021年度~、困難を抱えた女性への支援に取り組むにあたり、社会福祉

士、精神保健福祉士、キャリアコンサルタントといった専門家からの外部アド バイザーチームを設置。

波及効果(想定外、波及的・副次的効果)

①個別支援の活動について、当初はつながるプロジェクトとして大きく担う想定をしていなかったが、 本助成事業の実績を踏まえ、規模の大きい事業を受託することにつながった。また、そのことにより 団体として支援に携わる専門性やノウハウを蓄積することができた。

②石田教授からのお声掛けがあり、子育でにおける孤立をテーマとした書籍を共著で発刊する予定 (2023年度)となっている。松戸においては地域の連携やシステムづくりに関連した事例を記載する

アた。 ③2021年度に行われたマニフェスト大賞において、優秀躍進賞をいただくことができ、全国の自治 体に向けて活動を知っていただくことができた。(採択35件/応募総数2,730件) ④コンソーシアムのメンバー、協議会の運営委員や市内で子育て支援に携わっている人たちが集まり、「子どもにやさしい街」の実現に向けた準備会が立ち上がっている。 具体的には市の「子ども の権利条例」制定に向けた検討や、内部の学習会を行いながら、今後より多くの市民に向けた発信 などを予定している。

(4)中長期アウトカム

事業計画上の設定

千葉県松戸市において、子育てにおける様々な制度や支援につながりづらい 「グレーゾーン」にいる人たちが、「子育てしやすい」を実感できる街の暮らしを 実現する。そうすることで、産後うつや虐待といった課題の深刻化が予防・緩 吴現9 る。そう9 ることで、座像プンや信行といった課題の深刻化か予防・線 和されている。また結果として出生率の増加、子育で世代の転入者数の増加 につながっている状態。具体的には、子育では親だけではなく、地域全体で 支えるものだという感覚を市民が持てる機会が多くある。(市民同士の優しい 声かけ、行政や商店などでの理解のある対応、日常的に目にする場所に応 援のメッセージがある、等)

現時点での将来に向けた実現見通し

現時点においては、まだまだ当事者の感覚として「子育てしやすい」を多く感じられる場面は多くはないかもしれないものの、本事業を通じて「グレーソーンニー見してふつうの家庭」における孤立の現状やリスク、そして予防することの重要性を支援者や市民に発信することができたことが大きな成 果と考えている

今後は、まず大きく行政の子育て支援の文脈において母子手帳の配布や広場事業との連携に力を 入れていきたい。また既に取り組んでいる商店や企業においての広報活動を拡大すること、行政と の協働で始まっている子育て市民サポーターの養成を広げていくことに取り組んでいきたい。

5. 事業の効率性

<事業の効率性について>

1. 事業の効率性とは(評価指針より)

資金分配団体や実行団体が実施した事業で、資金や人員等のインプットがアウトプットやアウトカムを生み出すために最適かつ効率的に用いられたかを検証し、資源の有効活用、費用対効果等などについて検証する項目です。

- ・「代替する事業は、より少ない費用で同等の便益を生み出すか」などの観点から費用対効果を検証することも 有効です。
 - ・比較対象となるインプットの規模は、計画段階および実施段階で把握しておくことが必要です。

2. 基本的な考え方

インプット(投入されたヒト・モノ・カネ)が**適切に使用**され、アウトプットやアウトカムを生みだすために活用されたかを検証することを基本におきます。

- 「インプットの適切な使用」とは、実行団体・資金分配団体に期待される役割によって、考え方が異なります。
- ・団体特性により、事業の効率性の期待値が異なります。

以下のような内容を「適切な使用」の根拠とします。

- ・インプットが、対象とする受益者や地域の環境整備に資するために使われていること
- ・インプットが、社会課題の解決に結びつくアウトプット・アウトカムの発現に使われていること
- ・経費の妥当性(社会通念上妥当な経費であり、特に単価が高額な場合は、同等のものと比較して妥当な範囲であること)
- ・当初計画に沿って、自己資金、民間資金を適切に確保することが出来たか。(自己資金の一環として受益者に一定の自己負担を徴収する場合には、受益者負担額が通常の価格水準に比べて適切な水準に設定されていたかどうかもあわせて検証してください。)

インプットの適切性の検討

<視点例>

計画との違いはあるか/目的外の支出はなかったか/過大な支出はなかったか(節約が可能だった支出はあるか) / 遊休状態のインプットはあるか/計画通りの自己資金割合を実現できたか

※計画との大きな違いなどがある場合は、その要因、当該支出の必要性、対応策などについても記載してください。

全体的に計画通りに適切に実行・支出され、自己資金調達割合も実現できた。

まず支出の割合としては人件費、事業委託がほとんどを占めているが、これら比率としてもほぼずれることなく執行している。稼働にあたってはテレワークなども多かったが、slackを活用して労務管理を行い日々の活動内容を把握することに務めた。次に大きいものが発行物のデザイン等に関わる委託費になるが、依頼する人についても子育て世代の女性にお願いをしており、ターゲットに適したデザインであることはもちろん、一般的な相場よりも抑えた金額で細やかに対応していただいている。

量的・質的に重要性の高いインプットの特定と、アウトプット・アウトカムとの関係性の検討

く視点例>

金額的、労力的に重要性の高いインプットは?アウトプット・アウトカムの量や質に大きな影響を与えると考えられるインプットは何か?

当該インプットが生み出したアウトプット・アウトカムは?効果の持続性は?

当事業で重要なキーワードとしている「グレーゾーンにある家庭」を中心とした、なかなかつながりづらい子ども・親へのアプローチ活動についての金銭的インプットが多くの割合を占めており、想定していたアウトカムを概ね達成できた。子育ての孤立を防ぐ地域を実現する上で、弊会が当事者に寄り添う存在になること、またその関係性から得られるつながりづらさの要因や生の声を代弁できるようになるという点で重要であり、効果は持続していくと考えられる。また、特に母親など子育て当事者を対象とした事業について、運営側に当事者がいたことは、アウトプット・アウトカムの質に良い影響があったと考えられる。

効率性の検討 (資源自体の課題、資源の活用方法等の課題、それら以外の課題(影響要因)を仕分けて検討を行う)

<視点例>

- ・インプットはアウトプット・アウトカムの発現、量・質の向上において必要だったといえるか、過不足はなかったか
- ・アウトプット・アウトカムの発現の量・質の向上に貢献した資源は何か、それはなぜか
- 節約できる資源、代替できる資源はあるか
- 事業の継続または拡大に伴い逓減することが見込まれる費用はあるか
- ・資源の配分の仕方に問題や改善点はないか
- ・資源の活用方法や運営管理体制に問題や改善点はないか
- ・アウトプット・アウトカムの発現や向上のためにさらに必要な資源は何か

官民のステークホルダーのネットワークをつくる活動へのインプットは割合としては少なかったが、行政との協働事業につながるなどの効果を考えると重要性は高い。一方で、つながりたくてもつながれなかったステークホルダーの存在や、一部の協働事業は単発のものになっていることを考えると、ここにより多くのインプットを投入することも必要であったと考えられる。

6. 総括

事業実施の妥当性の自己評価

特定した事実および価値判断結果より、事業実施の妥当性は高いといえるのかを自己評価してくだい。課題や ニーズの適切性、課題やニーズに対する事業設計の整合性、事業運営管理の適切性、成果の達成状況などす べての観点を総合的に振り返ってください。

事業実施プロセスおよび事業成果の達成度について自己評価し、(1)、(2)各1箇所を選択してください。						
		多くの改善の	準までに少し 改善点があ			想定した水 準以上にあ る
	(1)事業実施プロセ ス				0	
Ī	(2)事業成果の達 成度			0		

上記の自己評価の理由・根拠等

上記の通りに、事業実施プロセスおよび事業成果の達成度を評価する理由・根拠の要点を記載してください。 ※契約当初の総事業費から数百万円規模で増額・減額している場合や、アウトカム変更を行っている場合には、 その変更の妥当性についてもコメントを記載してください。

・計画した事業の実施については、アウトプット・アウトカムの達成状況からも概ね水準どおりだったと考える。 ・事業成果の達成度としては、地域全体で取り組むエコシステム形成の観点でまだまだ個の活動に留まってしまっている、巻き込み切れていない点があることが改善点と考える。

成功要因 : 課題

事業で達成した成果のうち、特に目指すビジョンや中長期アウトカム等に貢献し得るアウトカムと、達成が困難であったアウトカムについて、その要因や課題を記載してください。

・子育てが孤立しない地域を目指すエコシステム形成の観点で、自団体が直接的に行ったことよりも、その先に行われたことが重要であると振り返る。具体的には円卓会議に参加した方がそこでのつながりを活かして支援につなげる、市民サポーターに参加した方が地域で声掛けを行う、といったアクションである。そういった点において、子育てを取り巻く支援者や市民に一定のアプローチ(円卓会議、市民サポーター養成、研修やボランティアへの参加、学習会)を通じて孤育ての課題感や現状を伝えることができたのは成功要因と言える。

・一方で、インプットの点でも直接的な支援活動に比重が大きくなった。背景としては、3年間の中盤から個別支援に関わる別事業が始まったこと、当事者に近いグレーゾーンに埋もれている悩みや課題に触れることでますます支援の必要性を感じていることが挙げられる。そこから一定の知見が得られたということもあるが、現場感を持つということと、それらを地域全体で共有し対話を進めることの両輪のバランスを取ることに課題があった。

事業継続に向けた戦略とその実施状況等(事業の将来に向けた提言)

本事業をどのように持続・発展させるか、その戦略と実施状況等を、事後評価の結果から抽出された気づきを踏まえて記載してください。

まず継続の観点において、全体の振り返りからコンソーシアムとしてエコシステムを形成していく上で要になる取り組みと、または個別の団体で取り組んだ方が良いと考えられるものに分かれると考える。その中で、直接的に当事者に関わるもので独立した採算が見込める事業は運営主体を移していくことを予定しており、引き続き成果を上げられるよう取り組んでいきたい。一方で、出産お祝いプレゼントやその後のLINE相談といったものは様々な主体と連携することが重要であるため、クラウドファンディングの実施を行うことで資金調達を図ると共に理解者・共感者を増やしていく。短中期的には会員制度を確立することや、円卓会議および市民サポーター養成講座について、現在の協働事業からさらに発展させながら持続可能な運営体制を目指す。

知見・教訓

事業の経験や学びから類似課題への取組みに参考とできる具体的な教訓を、評価結果に基づいて、記載してください。

- ・まず本事業における運営体制について、特性の異なる3団体がコンソーシアムとして進めていったことが大きな価値であったと考える。家庭に寄り添いながら支援を行うことに強みのある団体、企業者や多職種と連携して事業を進めることに強みのある団体、行政や他機関のネットワークに強みのある団体、の3者で役割分担することで、それぞれが得意とする領域に力を発揮することができた。
- ・事業のコンセプトでもある予防的アプローチについて、出産時(できるだけ出産前)につながることの重要性を感じている。弊会では出産お祝いのプレゼントをお渡しする際に公式LINEへの登録をしてもらっているが、その段階では相談をしようと思うほど困難を抱えていない人も、産後の心身の不調や子どもの成長、夫婦の不和に伴ってまず身近に一歩メッセージを送れる先を用意しておくことで、実際に相談に至るケースが多く見られた。登録しているアンケートの結果から見えることとして、相談窓口という見せ方ではなくあくまで地域情報を知ることができるツールとしていることで、身構えずに利用することができている。

その他深掘り検証項目(任意)

団体が重要・有益だと思うことを、より深掘りして検証を行った事項があれば、その内容を記載してください。

・事業スタート時から、子育て当事者が抱えている孤立の構造をより深く把握するために早稲田大学の石田教授に協力いただき、アンケート調査やフォーカスグループインタビュー、個別のヒアリングなどに取り組んできた。その過程で、一般的には「幸せ」と見られている、または本人の自覚としてもそう表現されている「ふつう」の家庭においても、子育てで孤立が生まれる危うさがある状況が見えてきた。特に、周囲に頼ることができる人がいない核家族や転入者である場合、夫婦間のコミュニケーション・関係性が大きく母親の孤立感に影響することや、孤立感には世帯の所得や学歴があまり影響しないことなどが明らかになった。

7. 別添資料

別添資料名

以下のような事業の成果を伝える補強となる資料があれば、資料名を記載し、別添でご提出ください。 なお、個人情報含む資料や事業リスク上対外公開を避けたい資料があれば、ファイル名冒頭に【非公開】と記入 ください。

※過去に提出したものは再提出していただく必要はございません。 (例)

- •事後評価報告時の事業計画やロジックモデル
- 事前評価報告後に見直した事業計画やロジックモデル
- ・広報活動の成果品(入稿データか紙のPDFスキャン/画像データ)
- ・事業の様子がわかる写真資料(画像データで3-4枚ほど。写真内容をファイル名に記載)
- ※公開可能な写真を貼付してください。(肖像権・著作権に十分にご注意ください)
- ※エティックの事後評価報告書に掲載させて頂く場合がございます。
- ・とりまとめられた白書や調査結果/報告書
- •アンケート調査結果や実際に使用した調査票
- ・論文、学会発表資料、特許 など

・写真 https://drive.google.com/drive/folders/1UmhrPKM5JZh9gn-xtw-GTNnHymlIid5c?usp=share link チラシ https://drive.google.com/drive/folders/1xc0mNQpkisx5GOT2J4oRIB3mfGDYfbHK?usp=share_link ・子育ての実態調査に関する資料など(調査票2021、調査結果報告2021、調査報告書2022、最終報告2023)

https://drive.google.com/drive/folders/1YHiOFoD_SgMRZGITF0x8LE5nV6XiLvwp?usp=share_link

メディア掲載情報

本助成期間で掲載・放映等された外部のメディアがあれば、時系列(新しい→古い)で記載ください。

※インターネット上で閲覧できる場合、そのリンクも追記ください。

※過去提出頂いた報告書に記載されているメディア掲載情報も、再度記載ください。

2022年11月25日 J:COM出演 駄菓子屋カフェくるくるの活動紹介

https://chiicomi.com/press/1900250/

2022年11月4日号 ちいき新聞への掲載(プラーレ松戸に見る 地域と連携し、「孤育て」の解消へ)ウェルカムベ ビープロジェクトの紹介

https://chiicomi.com/press/1969564/

2022年4月4月29日号 ちいき新聞 駄菓子屋カフェくるくるの活動紹介

2021年11月 第16回マニュフェスト大賞 優秀躍進賞 受賞

http://www.local-manifesto.jp/manifestoaward/docs/2021100400017/

2021年12月10日 毎日新聞 ウェルカムベビープロジェクト

2021年11月26日 読売新聞 おむつ自販機

2021年11月19日 地域新聞 ウェルカムベビープロジェクト

https://www.city.matsudo.chiba.jp/shisetsu-guide/kaikan_hole/yuu_matsudo/yuumatsudo.html

|2020年11月13日 第15回マニフェスト大賞 エリア選抜<関東エリア>

http://www.local-manifesto.jp/manifestoaward/docs/2020092800119/

2021年3月発行 松戸市の男女共同参画を進める情報誌ゆうまつど掲載

https://www.city.matsudo.chiba.jp/shisetsu-guide/kaikan_hole/yuu_matsudo/yuumatsudo.html

2021年1月29日号 ちいき新聞(八柱·五香版65940部/松戸駅周辺版63763部…「地域でつながる笑顔の子育てまつどでつながるプロジェクト」)

2020年11月13日号 ちいき新聞(新松戸・北小金版65120部/松戸駅周辺版63703部…「親子でチャレンジ!オンライン謎解きイベントNAZONAZO QUEST」)

2020年9月15日号 市報・広報まつど(「地域で支える子育てで、家庭の孤立化を防ぐ」)

https://www.city.matsudo.chiba.jp/shisei/matsudo_kouhou/kouhou/kouhou2020/20200915.html